



Y's Men International

2021-2022 Japan East Region Bulletin

Our Motto 標語

“To acknowledge the duty that accompanies ever right”

「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」

2021-2022 年度 主題

国際会長 キム・サンチェ (韓国)

主題 “Y's Men with the World”

「世界とともにワイズメン」

スローガン “Heal the World with Love & Dignity”

「愛と尊厳で世界を癒そう」

アジア太平洋地域会長 大野勉 (神戸ポート)

主題 “Make a difference beyond the 100th”

「100年を越えて変革しよう」

スローガン “Be healthy!”

「健康第一！」

東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮)

主題 “Think for the next generation.”

「私たちは次の世代のために何ができるか？」

スローガン “We are stronger together than we are alone.”

「絆を深める時」



理事

大久保知宏（宇都宮）



私たちは次の世代のために何ができるか？

“Think for the next generation.”

これが、私の理事主題になります。2021-2022年度はワイズメンズクラブが生まれて100年の節目の年です。同時に次の100年の始まる年となります。次の世代を育て、何を伝えていくのかを考える年とすべきと思います。コロナウイルスなどの影響を受ける年になることが予想されますが、それに対応した制度を作っていく年度にしていかなければならないと考えています。

絆を深める時

“We are stronger together than we are alone.”

次の100年のためにできることの一つが、会員、YMCA、地域の皆さんと絆を深めることであると考えました。コロナウイルスは個人の身体的な脅威であると同時に、組織の弱体化を引き起こしています。皆さんが一人ではなく一緒にいることで強くなっていきます。今こそ、会員が相互に理解を深め、絆を深める時です。

重点課題として次のことを掲げます

一つ目に、東日本区は一般社団法人となることが承認されました。東日本区が法人化したメリットを最大限に活かしていきたいと考えています。クラブが実施する事業を一般社団法人だからできる事でしっかりサポートし、信用度を高め、会員増強においてChange!2022の目標を達成したいと考えています。また、ご承認いただいた予算案に従って、現在のウェブサイトの全面的な更新を行い、一般社団法人として、対外的な情報発信力を高めていきたいと考えています。

二つ目に、新しい生活様式に沿ったクラブ運営を行うこととしたいと考えています。

対面にこだわらず、会員の健康を最優先とした運営を行うこととし、区主催の会議等はオンライン会議にて行っていきます。また、そうした新たな環境に対応できるよう会員の皆さんへのトレーニングを行っていきます。

最後に、組織力の低下を補う新組織を構築したいと考えています。また、クラブの新しい形であるグローバルクラブを設立することを目指します。さらに、ワイズがサポートする各地のYMCAで活動する現役リーダーのユースクラブを設立することも目指します。

今回のパンデミックの発生という事態に対応したクラブの在り方を考えなければなりません。企業が事業継続計画を策定し、こうした事態に対応するように、ワイズメンズクラブもこうした事態での組織存続をどのように図るのかを計画しなければなりませんと思います。現在の状況での組織存続のカナメは何と言ってもクラブの会員維持にあります。経済状況は様々ですが、コロナの影響を大きく受けられている会員もいらっしゃると思います。区としては緊縮予算を策定して、区費負担の軽減を図っていききたいと考えています。



Y'S MEN INTERNATIONAL "Heal the World"



Kim Sang-chaе
International President 2021/22

Kim sc 28.



Dear Y's Men families of Japan East Region,

Warm greetings from Gimhae, Korea!

Thank you for the opportunity to speak to you through the Regional Bulletin.

First of all, my heartfelt congratulations to RD Tomohiro Okubo who will lead the Japan East with dedication and passion for YMI.

In fact, I'm quite surprised that his focus for 2021/22 coincides so well with my own thoughts on starting my IP tenure. Through his theme «Think of the next generation» and the slogan «We are stronger together than alone», I learned that he focuses on friendship and solidarity as a springboard for the continuation and development of the organization.

I am delighted and grateful for his pledges to bring the Regional membership back to its peak, increase visibility, and evolve into a new, flexible organization through aggressive EMC to make his Region resilient and strong.

I don't know much about RD Tomohiro Okubo's professional background, but I'm sure he will be a strong and well organized leader who can bring about positive results.

We are well aware of our problems. The aging of the members and the stagnant numbers have been tormenting us for a long time, and the impact of the recent Covid situation is also making it impossible to fully enjoy the long-awaited 100th anniversary celebration mood. We have been thinking about it for too long . It's time to take action.

EMC! We know its importance. YMI's operational plan, Challenge 22, has been with us for many years. But without active leaders and working members, if we only stay on the sidelines, we believe that our visibility, our leap, is impossible.

I assume the office of President in the midst of difficult times, times where we are confronted by uncertainty and unfamiliar conditions.

And YMI will celebrate the 100th anniversary of Y's Men International in 2022, and take a journey towards a new 100 years..

It is my intention to focus on YMI's visibility when planning this year's agenda.

Our visibility as a global service organization starts with the invaluable community service we provide at the local level. This work, our principal purpose, can motivate not only our current members, but also future members, governments and relevant authorities.

Heal the World — my expectations for this project are high.

There is already a lot of progress in adopting the concept in Areas where the COVID-19 pandemic is rampant in the communities. I see HTW as a way to provide brand identity currently lacking to Y's Men International. I see it also as a way to open doors to practical collaboration with the YMCA in all areas.

We understand the importance of promoting the YMI movement. And publicity requires scale and motivation. With aging members and stagnant contributions, these challenges can only be fixed if strong motivations and appropriate methods are combined.

A new Unified Global Project, Heal the World, awaits your participation.

I believe that we all have passion, generosity, a clear sense of purpose and the will to nurture the Y's Men movement.

I look forward to your unwavering support and cooperation and hope that our passion will blossom in all Regions of the eight Areas.

As the incoming IP, I want to maximize opportunities to put Y's Men in front of the public as an impactful, relevant, welcoming organization with integrity and compassion.

As we move toward the new 100 years of the YMI movement, I look forward to a true companionship in this journey with the Heal the World initiative.

Let's have a successful and healthy year together.

Thank you.

東日本区のワイズメンファミリーの皆様。

韓国の金海から心を込めてご挨拶申し上げます。

この度は、区報を通じて皆様にお話する機会をいただきありがとうございます。

最初に、YMI（ワイズメンズクラブ国際協会）への献身と情熱をもって東日本区をリードして下さる大久保知宏理事に心からのお祝いを申し上げます。実は、大久保理事が2021/22年に向けて焦点をあてていることが、私が国際会長の任期をスタートさせる際に考えていたこととあまりにも一致していて、とても驚いています。彼のテーマである "Think of the next generation" やスローガン "We are stronger together than alone" を通して、彼が組織の継続と発展のためのバネとして、友情と連帯を重視していることを知りました。区のメンバーシップをピークに戻し、知名度を上げ、積極的なEMCによって柔軟性のある新しい組織に進化させ、自分の区を耐性のある強い組織にすることを誓ってくれたことを嬉しく思い、感謝しています。大久保知宏理事の職業的な背景についてはあまり知りませんが、強力によく組織されたリーダーとして、ポジティブな結果をもたらすことができると確信しています。

私たちは、自分たちの問題が何であるかをよく知っています。メンバーの高齢化とメンバーシップの低迷は長い間私たちを苦しめてきましたし、最近のコロナの状況の影響もあって、待ちに待った100周年のお祝いムードを十分に楽しむことができなくなっています。私たちはあまりにも長い間、考えるのみでした。今こそ行動を起こす時です。EMC! 私たちはその重要性を知っています。私たちは、YMIの実施計画「Challenge 22」を長年にわたって実行してきています。しかし、積極的なリーダーや働くメンバーがいなければ、傍観しているだけでは、私たちの存在の知名度の向上、飛躍は不可能だと考えます。

私は、不確実性と不慣れな状況に直面している困難な時代の中で、国際会長の職に就きます。そして、YMIは2022年に100周年を迎え、新たな100年に向けて旅立ちます。今年度の計画を策定するにあたり、YMIの知名度の向上に焦点を当てたいと思います。グローバルな奉仕活動の組織としての私たちの知名度は、私たちが地域レベルで提供しているかけがえのない地域奉仕から始まります。私

たちの主要な目的であるこの活動は、現在のメンバーだけでなく将来のメンバーや政府、関連当局のモチベーションを高めることができます。Heal the World - このプロジェクトへの期待は大きいです。COVID-19の感染が蔓延している地域では、すでにこのコンセプトを採用することで多くの成果を上げています。HTWは、YMIに欠けているブランド・アイデンティティを提供する方法だと思えます。また、あらゆる分野でYMCAとの実践的なコラボレーションへの扉を開く方法でもありと考えています。私たちは、ワイズ運動を推進することの重要性を理解しています。そして、広報には規模とやる気が必要です。会員の高齢化や寄付金の低迷など、これらの課題は、強い動機と適切な方法が組み合わされなければ解決できません。新しい統一グローバル・プロジェクトである「Heal the World」は、皆さんの参加を待っています。私たちは皆、情熱、寛大さ、明確な目的意識、そしてワイズ運動を育てていく意志を持っていると信じています。皆様の揺るぎないご支援とご協力をお願いするとともに、8つの地域すべてで、私たちの情熱が花開くことを願っています。

次期国際会長として、私はワイズメンを誠実さと思いやりがあり、インパクトもあって、適切で、歓迎すべき組織として世間にアピールする機会を最大限に活用したいと考えています。ワイズ運動の新たな100年に向けて、私は、Heal the Worldイニシアチブと共にあるこの旅で、みなさまが真の伴走者となってくださることを楽しみにしています。

ありがとうございました。

アジア太平洋地域会長
大野勉（神戸ポート）



東日本区のみなさま

新しい年度が始まりました。常にチャレンジを続けておられる東日本区のみなさまに敬意を表します。

大久保知宏理事と共に、ますますアクティブに活躍されることを期待します。

今年は、ワイズが誕生して100年。東西日本区に分かれて25年目にあたります。

東西日本区は、常に共に歩んできました。最近では、2010年の国際大会、2015年と2019年のアジア太平洋地域大会の開催がありました。東西日本区が協力して、それぞれの大会で1000人近くの参加者を集め、大きな成果を上げることができました。

今後は、東西日本区の活動自体をもっともっと地域、国際へ知らせることで、より健全な世界づくりに向けて、さらに貢献していくことを願っています。

今期、アジア太平洋地域会長としてのテーマは、「100年を越えて変革しよう」。スローガンは、「健康第一！」を掲げました。ワイズ100年をみんなで祝福し、次の100年に向けてさらに前進すること。そして、ワイズ運動をより発展させ、より良い社会づくりに貢献していくためには、私たちの健康が第一であること。そのように考えたのです。

どうぞ、健康づくりに留意され、健全なボランティア活動の積み重ねを通して、大きな成果をあげられることを願っています。

日本 YMCA 同盟
総主事 田口 努



ご挨拶

2021-22 年度ワイズメンズクラブ国際協会東日本区大久保知宏理事期のスタートに際して、日本 YMCA を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。日頃より様々なお支えを賜りありがとうございます。

1 年以上にわたる新型コロナウイルスのパンデミックによる困難の中で、前期板村哲也理事期より、東日本区のクラブ会員、区役員の皆様には引き続きお世話になります。今期大久保理事期の 2021 年度、全国 YMCA と日本 YMCA 同盟は、東西両区と全国 YMCA のパートナーシップの働きが推進されますように、今まで以上にチャレンジの気持ちを持ち様々な課題に取り組む所存です。

また、ワイズメンズクラブ国際協会の創立 100 周年を記念する特別活動と、東西ワイズ交流会などの新規事業計画を通して、新たな YMCA とワイズメンズクラブの協働が進められることを願っております。

私たちの YMCA 運動も、国内、国際それぞれに 3 度目の緊急事態宣言や蔓延防止措置などにより、昨年よりも対応力をついたものの、先の見通しが立たない事態がつついております。2021 年度からスタートする日本 YMCA 中期計画で、「光は暗闇で輝いている」という聖書の御言葉をテーマとして、明確な社会課題に対してフォーカスし、YMCA 運動の進むべき方向性を見出していきます。「今こそ、ポジティブネット」の創造を目指し、①レジリエント、②リカバリー、③リイマジネーションの 3 つの方向性を持ち進めてまいります。それぞれ、①私たちの内面的な強みを共有する ②どのように方向転換することが最善かを考え、新しい現実と直面し強みを発揮するために、デジタルに強みを見出し、若者と出会う場所と機会

創出をする。③私たちがどこにいて、どこに向かっていくのかをじっくりと見つめる。この 3 つを目指してまいります。

このようなテーマを共有しつつ、私たちの活動が、それぞれの組織の価値を持ちつつも、常に同じ方向に向かう、力強い働きとなって、社会に対して、希望の灯を照らし続けることを望んでおり、祈りの中で進めます。目指したいものは、希望であり、希望の灯を高く掲げていく志を明らかにしていくことと考えます。

最後になりましたが、現在も不確実性は大きくなってありますが、主の豊かな導きで、よき働きができるように一步ずつ前進する所存です。ワイズメンズクラブ国際協会東日本区の全ての皆様におかれましては、健康が守られて、よき働きを進めていただけますようにお祈りいたします。言い尽くせぬ、感謝とお礼をもって、ご挨拶とさせていただきます。今期も、何卒宜しくお願い申し上げます。

2021-2022 年度

西日本区理事 新山兼司



主題 Callenges for the future

未来への挑戦

副題 羽ばたこう！2022年ワイズ100周年に向かって！

東日本区の皆様には、日頃よりワイズダム発展のため、ご尽力をされておられることに敬意を表するとともに、2021-2022年度は、大久保理事を筆頭に、ご活躍されることを、心よりお祈り申し上げます。今年度西日本区理事を務めます新山(あらやま)兼司(けんじ)です。私は、1982年京都パレスクラブに入会し、1983年には、京都キャピタルクラブへ移籍、現在京都トップスクラブに所属しています。今から24年前、日本区から東西日本区に分割され、西日本区としての会員数1,952名おられましたが、現在1,424名となり528名もの会員減少となっています。

今期の最重点目標は、会員増強及び退会防止策です。事前に西日本区各クラブから今期の会員増強目標を確認しましたところ、全体で272名の会員増強目標があがってきました。

西日本区EMC事業委員会・西日本区EMCアドバイザー・ワイズ将来構想特別委員会と連携し西日本区の皆様とともに、目標の会員増強が出来るよう努力したいと考えています。

ただ単に会員数を増やすことでは無く、入会された方々が心の底からこのクラブに入って良かったと思うクラブにして頂きたいと思います。

今期も新型コロナウイルスの影響を受けながらのスタートとなります。会員の皆様の健康を考えながら、ワイズメンズクラブ創立100周年、東西日本区25周年に向かってワイズの活力を取り戻し、活気溢れる西日本区にしなければなりません。コロナ禍であっても新しいスキルを身に着け現状を打ち破り、ワイズメンとしての誇りを持ち、自らの成長と共にクラブの発展に繋げて頂きたいと思います。

東日本区の皆様と切磋琢磨し、東西日本区に良い風を吹かせたいと思います。

共に邁進しましょう！

次期理事

佐藤重良（甲府21）



「活気のある 楽しいクラブ
活動しよう」

21-22年度大久保和宏理
事スタートに当たって

ワイズメンズクラブは多くの先輩たちが苦難の壁を乗り越えてここまで築いてこられた素晴らしい団体であると思っています。

先人の築いてこられたご労苦に敬意と感謝を申し上げます。

現在も数多くの課題があります。その最大の課題はなんとといっても会員の高齢化、会員数の減少問題だと思います。他にもたくさん課題がありますが重点を縛り、みんなで知恵と工夫で目標を達成してゆきたいものです。

私たちは、現状又未来に向かって世の中の支援が必要とする人たちに少しでも貢献できますよう活動しなければと思います。

このためには、まずクラブ員が友情と絆で結束され、楽しいクラブでありたい。楽しいクラブからクラブが活性化され、自由で活発な活動がなされ社会から見て魅力あるワイズメンズクラブとなることを願いつつ、大久保和宏年度をサポートしてゆきたい。

直前理事

板村哲也（東京武蔵野多摩）



絆はコミュニケーションから

理事就任も退任もコロナの中

となりました。コロナ漬け、緊急事態宣言続きの1年で、対面活動が制限されましたが、Zoomの浸透と皆さまのご協力、ご支援でほとんどの行事を予定通り終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

新クラブの誕生、法人化の準備の進展、東日本大震災10周年事業、ワイズ100周年記念兼東西日本区25周年記念行事の取組開始などの一方で、区の最大の課題である会員増強の目標が大幅未達となり、残念な結果となりました。

コロナの中でIT格差が生じました。組織の弱体化防止のため、格差解消、コミュニケーション(即ち共有)、絆が重要となりました。まさに「絆を深める時」です。直前理事として大久保理事をお支えして参ります。どうぞよろしくお願い致します。

書記

衣笠輝夫（埼玉）



変革の胎動を記録に

コロナ禍を機に生まれた変革の胎動。ZOOMによるオンライン会議はもはやニューノーマルとなりました。変革は胎動からさらに大きなうねりになりつつあります。一般社団法人化、ハンドブック&ロースターのデジタル化、新しいワイズメンズクラブの形（グローカルクラブ）、内向きから外向きへと舵がとられた東日本区ホームページ、会員増強の強力なツール（スマホ専用サイト）開発等など。全て一朝一夕で実現するわけではなく、ワイズメンの忍耐強い会議の積み重ねで実現されようとしています。これら変革の胎動を記録し、次世代へ受け渡ししていきたいと思えます。

会計

鈴木伊知郎（宇都宮）



会計システムの変革

東日本区は任意団体の顔と一般社団法人の二つの顔を持つ団体となりました。私が担当する会計業務に関しては、より精度の高い税務に耐えられる会計が求められることから、今年度からは新たな仕組みの導入を行うこととなります。新たに定められる経理規程、金銭出納管理規則、決裁権限表に準拠した会計処理を長尾副会計、小林事務所長と連携して行きます。また、新型コロナウイルスの影響を受けずに処理が可能なインフラの整備も行っています。一年間、ご協力いただきますようお願いいたします。

地域奉仕・YMCA サービス事業主任

深尾香子（東京多摩みなみ）



我々を知ってもらうために！
事業主題「振り返り、自信をみつけ、踏み出そう」

今年度の我々は、未だコロナ禍にあり、収束への期待と数々の脅威や不安の中におりますが、足元の事だけでなく、その先の未来を見据えて、じっくり充電し、次に向けて準備を致しましょう。以下に、皆さまへ4つのお願いを挙げますが、これは、上記の事業主題を具体的にお示ししたもので、区の方向性とも合致しています。1年を通して、この4つを、それぞれの部、クラブのご事情により自由に時間配分をなさって、成果を上げて下さい。私からは、この理事通信その他を利用し、区の動きをお知らせしますのでご利用下さい。事業委員会は、少なくとも年3回（9月、1月、5月）の開催を予定しています。皆で進捗状況を確認し、知恵を出し合い、励まし合う、和やかな会にしたいと考えています。これに下記2.の非常時対応を加え、1年後、すべてのクラブが“にこやかに”コロナ後の新たなワイズライフへ、スタートを切って下さることを願っています。1.(1)各部、クラブにおける「順延」「中止した活動」「実施出来た活動」を振り返ります。(2)次いで、それらと地域及び、2者(ワイズ&YMCA)、3者(ワイズ&YMCA &ユース)の連携、やコロナ禍での継続の可否を検討し、優先順位を考えます。(3)そこから新しい活動を立ち上げ、あるいは既存事業を再構築して実施へと進めます。(4)認知度、知名度を上げるため、これらの活動の一般社会に向けたPR、広報を検討します。2.災害発生時の安否確認の方法と、支援体制（自助、共助、公助）の共有や整備。これらの活動の目標は、地域の方々や、つながりのあるYMCAへ我々をより一層知ってもらい、共感を得て、仲間になってもらうことです。1年間、よろしくお願い致します。

会員増強事業主任
大川貴久（熱海クラブ）



事業主題「ワイズの未来を照らす若返り実行計画」

ワイズの10年後（2032年）はどうなるのだろうかかと暗澹たる気持ちになるのは私だけだろうか。私だけではなくワイズメンバーの皆様は「心の奥底にこののまではワイズに明るい未来は見えない」と薄々感じていると思う。そこで、過去の繰り返し、焼き直しではなく即実効性のある「若返り実行計画」が必要です。

1.Change2022! を継続させ、新規入会者獲得のため、まず自クラブ内の現状の把握そして改善、誰が見てもこのクラブに入ってみたいと思わせるような魅力あるクラブを企画立案（声を掛けて頂ければ区からもお手伝いします）し実行する。

2.1クラブ3名の純増を計るため、各部の部長、EMC 事業主査、部エクステンション委員長、各クラブ会長またはEMC 委員長を柱として実行部隊を作り、毎月 Zoom 委員会（部長または主査、エクステンション委員長）を開催する。

作戦計画、遂行、実行状況を会員増強事業主任が把握する、現状報告と問題点を発表してもらう。

3.自分の名刺の裏にQRコードを印刷してワイズメンズクラブ紹介ホームページを新規に作成し、毎月のアクセス数が分かるように導線を作成する。

4.ワイズメンズクラブを楽しんで、理解してもらうためには自クラブへの出席率100%を目標とし、メイキャップの実行も確実なものにする。他クラブへ出席することによりさらにワイズメンズクラブの理解を深めることができる。[

5.新クラブを設立していかないとワイズメンズクラブの未来はない。ZOOM だけのオンラインクラブ、ZOOM とオフラインのハイブリッドクラブの設立などを念頭に置くのも良い。

6.SNS、HP、QRコードを積極的に新会員募集のツールとして使用する

国際・交流事業主任
山田公平（宇都宮クラブ）



ユースアクション推進を！
事業主題「ワイズ運動とYMCAの活動をどう結びつけるか？」

ワイズとYMCAのパートナーシップを検討する委員会が東西日本区と全国YMCAによってこの数年間話し合われ具体的な案が出てきている。

「ユースアクション」というもので、ユースが、社会問題に取り組む機会を全国で募集する。それをその地域のYMCAとワイズが共に実現しようというものである。この事業は、国際・交流事業だけでなく、ユース事業や地域奉仕事業、YMCAサービスなど、これまでの事業ごとの活動を超えた考え方になる。「三方よし」という言葉があるが、ワイズ、YMCA、その地域社会、そしてユースの力を引き出す、まさに「四方よし」となる活動に結び付けたい。この運動は、国内だけでなく、世界各地でも実行できる形を提案していく。そうすると、国際的な働きを身近に感じられるようになるのではないかな。

海外とのつながり方は工夫が必要で、特定の国での具体的な支援活動と交流事業を結び付けていければ、国際がより身近に感じられる。TOF、RBM、YESなどの活動がもっと身近に感じられるようにするには何が必要か、例えば海外のワイズとYMCAが協働でプロジェクトを提案する可能性などを模索していく。また、もっと各事業の効果などが具体的に見えるようにするには何が必要かを考えていきたい。既存のIBCやDBCを活用して献金しているプロジェクトに結び付けるよう働きかけていきたい。これまでワイズが行ってきたユース、CSやYMCAサービス、メネット活動などの事業分野にこだわらない動き方を考えていきたい。どうやって？と考えても分からない。それでもやりながら、提案をし続けてみたい。YMCAと組んでワイズの働きが世間へアピールできるようにするための工夫していきたい。

ユース事業主任
三田庸平（もりおか）



ユースの力を輝かせる時
事業主題「ユースとワイズの繋
がりを強固なものに」

ユース活動でできることは何か？そう考えたときにこれからはユースを生かして輝けるものを作っていく事が大事だと思います。その為、まずはユースの集まる場所として、YVLF の開催・ユースクラブの設立を大事にしていきたいと思っています。ユースとワイズの関わりの為にも YVLF の開催時には、積極的に参加して頂き、ユースとの交流ができたと思っています。今のユース世代は、人との関わりをコロナによって失い我々の一声で集まり話すことができ、活発なユースを取り戻せたらと思っています。また、日程は未定ですが、オープンフォーラム Y の開催をして、YMCA 以外のユースに向けて話して交流でき勢いをあたえられるものを開催出来たらと思っています。それによって、主題であるユースとワイズの繋がりを強固なものになるとしています。出来る事から行いたいと思っています。

【重点活動】

ユースクラブ設立

ユースクラブの設立を目指します。ワイズとの連携を強める一つとしてかなえたいと思っています。

オープンフォーラム Y 開催

今の若い世代が考えている話題を取り上げて 1 年通してより多くの若者にみんな考えてもらい交流してもらえたらと思っています。

ユースの派遣&報告会

IYC・AYC・ユースリーダーズフォーラムの派遣
ユース事業の支援
各部・各クラブのユース事業をして頂き、支援をさせて頂きたいと思っています。

ワイズメネット委員長
澁谷実季(所沢)



委員会主題「ワイズメネットの強
みを活かそうー新たな可能性を求
めて」

現在もコロナ禍にあり、まだまだ活動が制限されている状況下にあります。少しずつ活動再開の目途を立てていけるのではないかと思えるようになってきたのではと感じています。私たちワイズメネットは対面で活動することを大切にしてきていますので、感染対策を十分に取り安心して参加できる活動をどのように計画し、実行していくのかを模索する日々であります。大久保理事は「私たちは次の世代のために何が出来るか？」との主題を掲げられています。ワイズメンズクラブ 100 周年の今年度は、内側に留まらず外側に向かって視点を広げ、ワイズメネットとしても次の世代に視点を向けてどのような働きが求められているのかについても具体的に模索していきたいと思っています。また、ワイズメネットの個々人の賜物（タレント）を活かした働きについても、委員会としても協力体制を確立させていきたくと考えております。ワイズメネットの皆さまの働きをサポートさせていただき、ワイズメネットの活性化に繋がられるよう、これまでの良いところを十分に活かし、ワイズメネットの強みを大切に、広がりをもって前進したいと考えております。

委員長 3 期目となる今期、ワイズメネットの活性化と情報共有を軸に活動を行いたいと思います。1 年間どうぞよろしくお願いいたします。

北海道部

部長 中村義春（十勝）



主題

「心を高めよう パート2！」
～ワイズダムの繋がりを友情の輪に～

今期、北海道部部長を務めさせていただきます、十勝クラブの中村です。皆様方のご支援を賜りながら、大役に取り組んで参りたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う大きな影響を受け、思うようにワイズ活動を行えないまま2年目に入りました。ようやくワクチン接種が始まり、今後、感染症対策が順調に進んでいくことを願います。まだまだ不安の残るコロナの影響と、三密状態を避けての制限された活動を余儀なくされる状況を考慮し、主題を昨年に続き「心を高めよう パート2！～ワイズダムの繋がりを友情の輪に～」とさせていただきます。

ワイズ活動が十分に再開されるまで、会員一人ひとりが心身の健康を守り、今できることを地道に行い、ワイズ仲間との繋がりを保ちつつ、心を高めていただきたいと思います。ウィズコロナ時代の新しい生活様式が示される中、ワイズにおいてもオンラインによる例会や会議、コミュニケーションが行われ、ほぼ全国で活発に採り入れられてきております。特に北海道部では、クラブ内のメンバー同士、また部内4クラブ間の距離が遠く、通常でも一堂に会することが困難な中、オンラインは有用なツールとなると思います。また、このような非常時こそ必要とされる地域への支援や奉仕、工夫もあるのではと思います。部内の皆様から、様々なご意見やご提案、お知恵を頂ければ幸いです。困難な状況を乗り越え、一日も早く活動が再開されることを願います。北海道部、そしてワイズダムの益々の発展に少しでもお役に立てれば幸いです。微力ですが、一年間よろしくお支えください。

北東部

部長 南澤一右
(仙台青葉城クラブ)



主題

「【続】変化を楽しみながら新生北東部を創ろう」『With コロナの新体制を確立しよう』

昨年度に引き続き北東部部長を務めさせていただきます仙台青葉城クラブの南澤です。

コロナの影響が長期化していることもあり、大きな変化が求められる状況を鑑み、その変化を楽しみながらコロナとの共存をしつつ新体制を確立することを今年度の継続方針としました。

まず、With コロナの推進として、リモートでの例会開催、SNSの活用、また、密を避けてのハイブリッド例会の開催促進を行ない、With コロナで新しい活動様式に対応したクラブ運営の確立に力を入れていきたいと考えています。

次に、Change! 2022の推進です。コロナの影響により、その目標達成が簡単なものではなくなってきております。そこで、対策として、まずYMCAとの関わり・絆を深めることに力を入れたいと思います。ワイズの主な役割はYMCAを支援することですが、新型コロナウイルスの影響でYMCAとの関わりも疎になりつつありますので、まずはコロナ対策を万全にしつつ、YMCAとの関わり・絆を再度深めたいと考えています。その上で、会員増強にはYMCAの協力も仰ぎ、YMCA職員やYMCA関係者(元ユースリーダー、元YMCA職員、YMCA関連施設の利用者、等)の入会を促進することでメンバー増強が可能になり、ワイズメンズクラブをより活性化することができます。YMCA関係においては、YMCAに深い理解があり、また、奉仕活動にも積極的であり、ワイズメンズクラブの会員としては理想的であると言えます。そうして、ワイズの活性化はもとよりYMCA支援もより充実したものとすることが出来ると言えます。今年度は、ピンチをチャンスに変え、Withコロナの新体制を確固たるものにしたいと思います。

関東東部

部長 大澤和子（所沢）



「私の地域から世界に広げよう
青少年を支えるワイズの輪・
和・ワッ！」

青少年は未来の宝です。少子高齢化で、1人の働き手（若い人）が4人の高齢者を支える時代になりました。けれども、我々ワイズメンズクラブのメンバーは支えられるのではなく、支える側に立ちたいです。4人のワイズメンが一人の青少年を支えると考えたらどうでしょう。年を重ねてもいつまでも元気でいきいきと生活するためには、セルフエスティーム（自己有用感）を高めることだと思います。

（若いパパママ、社会人、）大学生、高校生、中学生、小学生、幼稚園児や保育園児、障害のある方々…。私たちワイズメンは、そういう人たちを支えたい。年を重ね経験豊かなワイズメンは、若いワイズメンから活力を得て、一致団結して世界中の上記の若い方々を支えたいです。

クラブを超えて、部を超えて、区を超えて、国を超えてワイズの輪を広げたい。自分を愛し、隣人を愛し、地域を愛し、世界を愛するワイズメンでありたい。そうするとワッと驚く意義のある楽しいことができるのではないのでしょうか？

幸い、コロナのおかげで、私たちは、離れている人とも気軽に心をつなぐ方法を知りました。地域を大切にしながら世界中にワイズメンの愛を届けたい!!

活動計画

★三回の評議会やFB その他の様々な機会、意義のある楽しい企画・取り組みを報告しあい、共有することで、ワイズメンと、クラブのセルフエスティームを高める。

★青少年をクラブに招くとともに、青少年の集まりに出かけて交流を図ることにより、若者からエネルギーを分けてもらい、クラブの活性化を図る。

★女性が輝くワイズ風土を築く。

東新部

部長 松香光夫

（東京町田コスモス）



主題「東新部のエクステンションとSDGs」

ワイズメンズクラブ100年を目前にして一層の広がりを求めるのは当然と言えます。このところ、東新部でも新しいクラブを仲間になりたいと努力を注いでいますので、その力が実ることを願っています。クラブ増強には、新クラブを迎える他に、現クラブのメンバーを増やすことも射程に入っています。最近ではコロナ禍を逆手にとってオンラインで新しい仲間の繋がりもできています。絆を強めて新しいつながりを太くしていきましょう。

人数だけでなく、活動の内容にも目を配りましょう。

その点で最近の流行りはSDGsです。国連が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」として2030年を目途に、地球上の課題に取り組んでいます。ワイズメンズクラブの日々の活動とも、また目指すところとも重なるところがありますから、日頃から仲間と一緒に気を配りたいと思いますがどうでしょうか。

（貧困と飢餓）に取り組んでいる「こども食堂」はどうでしょうか？多様な弱い立場に寄り添える活動はできませんか？（健康と福祉）。不登校の子どもの支援、開発途上国の支援（教育の向上）。女性の力を大切にしよう。水、海、エネルギー、環境、生き物を大切に。気候変動の影響に気を配ろう。住み続けられる町づくりを。世界を平和に（人や国の不平等に対して敏感になろう）。色々な団体と手を組んで色々な課題に取り組もう（パートナーシップ・絆を大切に）。

こうして見ると、地球の課題が、意外にも身近な問題に映っていることに気がつくのではないのでしょうか。これらに取り組むことを通じて、私たち自身の力を鍛えていきましょう。

あずさ部

部長 長谷川あや子
(東京八王子)



道を拓く～愛と協力によって

あずさ部第25代目の部長を仰せつかりましたが、あずさ部は1997年の発足時より部長はクラブチャーター順の輪番制をとっています。毎年新しい部長が与えられるのはあずさ部にとって大きな恵だと思っています。新宿から松本を結ぶ特急あずさ号にちなんでの命名ですが、現在10車両で走っています。東京、山梨、長野にわたる広域の部として出発したため、部としての一体感を持つために部もクラブも知恵を絞り工夫を凝らして活動してまいりました。評議会も各クラブが順番で担当しますので、まず季節や場所に合ったネーミングを考え、心を込めて準備に当たります。苦労も多い分喜びも多いことを経験してきました。楽しかった思い出が力となります。今はコロナ禍のため思うに任せぬ状況ですが、生活様式がどんなに変わろうとお互いを気遣う気持ちを忘れず、「ワイズに居てよかった」という思いを大切に育てていきたいと思えます。100年前のワイズメンが道を拓き、種を蒔いて下さったように、私たち一人ひとりが種を蒔く人になりたいと思えます。

重点目標

- ・新しい生活様式に沿えるよう努力する・・・例会、CS活動など対面で出来なくても、工夫し、助け合ってクラブ運営しましょう。
 - ・各クラブ間の情報交換を積極的に行う・・・遠隔地でもZoomなら参加できます。“距離を越えて会うチャンス”ととらえて他クラブ訪問しましょう。
 - ・YMCAとワイズは友達・・・お互いに尊敬しあえる友人として力を尽くしましょう。
 - ・地域に必要なワイズとなるために出来ることから始める・・・地域のニーズを掘り起こし、まず一步を踏み出しましょう。
- 一年間どうぞよろしく願いいたします。

湘南・沖繩部

部長 若木一美 (横浜とつか)



湘南・沖繩部の現状

6月25日沖繩クラブ、6月30日に沖繩那覇クラブがそれぞれ解散しました。沖繩那覇クラブはまだ旅券の必要な時代に設立され、南東部から湘南・沖繩部に移行した際は横浜市内の各クラブと鎌倉クラブ・沖繩しいーさあークラブがオンラインも携帯電話も普及していない時代によく連絡をとりあっていました。

移行された初代吉田登部長・二代目高田一彦部長の時代に私は部役員として様々なことを教えていただきました。

沖繩YMCA幼稚園用バス支援(赤バスとか黄バスとか)の際は東日本区内各クラブにお世話になりました。沖繩YMCAの維持会員として登録いただいたみなさまありがとうございました。

その後2009年11月7日107名の会員で沖繩クラブが設立されました。沖繩クラブは独自の活動を目指して今日に至っております。解散後は西日本区へ移る新クラブ設立総会を6月26日開催し、11月にチャーターナイトの予定と伺っております。

今期から湘南・沖繩部は神奈川県内7クラブとなり、横浜YMCA吉村恭二元総主事の時代に始めた会長懇談会が「Yとワイズの協議会」に発展し90回を迎えています。ワイズの信条2にある「青少年のためにYMCAにつくそう」では、常議員会・各種委員会・施設ごとの運営委員会にメンバーが参画し、実践しています。

7クラブのご協力とご理解をいただきながら、1年間よろしく願いいたします。

富士山部

部長 小原進一(熱海)



主題「ワイズリニューアル」
副題「今、出来ることはしたたかに」

本年はワイズメンズクラブにとってはとても重要な一年になると思っていました。しかし昨年・本年の社会情勢を考えますと、事業や会合の自粛という今までのワイズ活動を全面的に否定された感じがします。どのクラブでも会員減に苦勞していることではないでしょうか。とかく我慢を強いられる状況は継続しそうです。

挨拶文を作成している今、ワクチン等の対策で多少明るい希望が見えてきました。また、富士山部のワイズメンズクラブは強力です。去年は動けませんでした。今年には万全な対策を考えて動き出すと期待しています。そして、エクステンションと会員獲得は永遠のテーマですが、メンバー同士の絆の強さはメリットになることは間違えありません。

社会情勢に伴って、クラブ運営を柔軟かつしたたかに変化して行きましょう。まず、コロナには絶対に感染しないこと（年齢的に）。クラブ間の情報交換は積極的に、行いたいと思います。

出口のないトンネルはありません。明るい未来を信じて、今出来ることをしておきましょう

財政監事 漆畑 義彦（富士）



変革の時

ワイズメンズクラブは変革する。緊急事態“コロナ”騒動の中で、東日本区の研修会や、行事、連絡事項など軒並みzoomとなった。苦手などと言っている事態です。高齢者でもチャレンジして対応しなければなりません。もちろん若い人たちの手助けを受けて4苦八苦しなから、クラブのため自分のためにと勉強していると思います。チャンスです、若者を含めクラブ全体でコミュニケーションを図りましょう。区の運営方法が一変すればクラブの運営も変わる、ワイズ全体の運営方法が変わる。法人化により定款の変更、会計システム制定、ロースター提示方法等々、今期は試練の年ですが未来は明るく開けています。わたくし達ワイズは変革する時です。

行政監事 田中博之

(東京多摩みなみ)



行政監事の務め

行政監事の最も大切な務めは、理事を始めとする東日本区の役員および代議員会、区役員会等の立法機関が、法令や社会規範に則り、また、国際憲法、アジア太平洋地域憲法、東日本区定款等の規定を遵守して活動を行っているかを確認し、そうでない場合は、相応しい助言を行うことにあります。これによって、東日本区の諸活動がより組織内外の信頼を得ることができ、ワイズ運動の発展につながる事のお手伝いできればと思っています。

みなさんも、新しい期のスタートに際して、憲法、定款等の私たちの活動の土台となるものを改めて読んでみませんか？ワイズを他の奉仕組織と際立たせていることを誇りに思っていたら、さらに、それぞれの根底にあるワイズスピリットを大切にしていっていただければ幸いです。

どうぞよろしく願いいたします。

文献・組織検討委員会

委員長 駒田勝彦（甲府21）



変革に対応するため文献・組織委員会は、規則第2条にあるように大きく分けて各規則等の文献に関することと、東日本区の組織に関する事項について協議し、検討を行う機関です。東日本区の組織、会がスムーズに運営、発展するために一人一人、規則、文言を理解し、共有し実行できることが大切と感じております。新型コロナにより、東日本区の集会、各クラブの例会等が、一堂にリアルに集まれない状況です。しかし、それに対応できるオンライン会議が行われてきました。この体験から、メリット、デメリットを学びそれに対応すべく規則、組織であるように皆さんと努力してゆきたいと思っております。委員長としては、委員の皆様が持っておられる素晴らしいタラントを生かしていただけますよう、微力ではありますが尽力させていただきますと思っています。

LT委員会

委員長 山下真（十勝）

時代に即した研修 マニュアル
ツールの提供を



今年の大きな東日本区の変革は組織の法人化です。それに伴う役職名称の変更や会議名の変更なども行われる予定です。今後、LT委員会では文献組織検討委員会等での論議を踏まえたマニュアルの改訂、編纂に着手します。会員増強の取り組みとして Facebook の活用、QRコードの利用など、今まで会議や理事通信、Change!2022 など提言されてきた内容を一本にまとめたものになります。ウェブサイトと各クラブの活動を結びつけるための日常の情報収集活動の定着を目指します。ガバナンス構築の変革をもたらすリモート会議の積極的活用の啓発を進めてまいります。お一人お一人がリーダーとしてコロナ後を見据えた運動の担い手となって頂くための研修、ツールの提供をおこないます。

東日本区ワイズ基金運営委員会

委員長 原俊彦（富士五湖）

東日本区ワイズ基金（JEF）について



今年度、高田一彦ワイズより運営委員長を引き継ぐ事になりましたが、長い間中央から離れ地元クラブでの活動が中心だった為、お話を頂いた時正直そんな役職が務まるか不安になる程でした。JEF 運営委員会の目的は、東日本区ワイズ基金の適切な管理・運用そして保全ですが、安定的な運用を図り、不測の事態に対応するためには何よりも先ず募金活動を積極的に進め資金的余裕を図る必要があります。幸い昨年度は、コロナと言う厳しい状況にも関わらず、高田委員長が掲げた目標・50万円を達することが出来ました。ただ、誰も一時的な疫病で終わると思っていたコロナが世界中に混乱と不安をもたらしている昨今、東日本区の財政基盤の強化とワイズ運動の更なる発展のために JEF へのより一層のご協力をお願い致します。

Change! 2022 推進委員会

委員長 栗本治郎（熱海）

Change! 2022（Never give up）

2022 年をゴールとする会員増強運動の『Change! 2022』が



スタートして3年目になりました。コロナ禍の影響もあり目標達成は厳しい状況ですが、今年中にはワクチン接種を受けることが出来ると思いますので Never give up でお願い致します。コロナのため、例会を開くことが出来ないクラブがある一方、Zoom 例会、ハイブリット例会を開いているクラブと多様な例会のスタイルを手に入れました。新年度には、現在制作中のスマホ専用のワイズ紹介カード（QRコードで写真・動画）を積極的に活用頂き、今までに提案してきました毎月の Change! 2022 ニュース、アクションプラン1・II（10号、15号掲載）を参考に、更に会員増強の意識を高めていきたいと存じます。ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

ヒストリアン

仙洞田安宏（甲府）

「新しいワイズ様式」のもとで前年度は、新型コロナウイルスの渦中、ワイズ活動も試行錯誤の一年で、「新しいワイズ様式」が模索された年でした。今年度もヒストリアンとして関心のある部分で新しい動きがあります。

まず、ハンドブック&ロースターが従来のような印刷物としては発行せず、デジタルデータでの配布となりました。「保存」について改めて考える機会でもあります。

もう一つは、月間強調テーマに「記録」という文言が登場しました(12月)。昨年、自クラブの周年記念誌を編集した際、日常の記録の大切さを実感したばかりなので、強調月間への登場は歓迎するところです。

いずれにしても、ワイズメンズクラブも変革の時であることは確かだと思います。



ITアドバイザー

山下真（十勝）

あなたのおそばのITアドバイザー

「ワイズをもっと知ってほしい」そう言えば広報・伝達（PR）専任委員のスローガンでしょうが、この願いはすべてのワイズメンの思いです。今年度、東日本区のホームページは、外向きの情報発信を目指して大きく刷新します。ITアドバイザーと広報・伝達（PR）専任委員はウェブサイトでは車の両輪だと考えています。佐竹誠専任委員と協力しあい支えあい、皆さんの支援を頂きながらワイズの魅力を知ってもらうために地域に社会に開かれた情報発信を前に進めていきます。また、ITのスキルには個人差があるという現状にも目を背けるわけにはいきません。個人、クラブ、各種会議でのIT技術のご相談にはいつでも乗ります。私と一緒に時代の波を乗り越え、時代の波に乗っていきましょう。



トラベルコーディネーター(TC)

長澤山泰（東京）

BF 代表を受け入れ、国際交流の喜びを！

TCの役目としては、BF代表の受入日程作成と査証取得を含めた準備が主となります。昨年、南米ペルーからロザンナ夫妻が東日本区大会(十勝)に合わせて来日予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、入国制限が続く中で来日延期を余儀なくされています。具体的な来日日程が決まりましたら、各部長を通じて担当クラブでのアテンドをお願いするようになります。ホストを受けていただく部とクラブにはご負担をお掛けいたしますが、主旨をご理解いただきまして、実り多い交流の場を設けていただければと思います。その節は、何卒ご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。



広報・伝達（PR）専任委員

佐竹誠（東京ベイサイド）

コロナ禍において世の中も急速にIT化が進みました。その中で浮き彫りになっているのが「情報発信の弱さ」です。対面活動に制限がある中で、この課題は今後の組織存続にも大きな影響があると考えています。2022年100周年を迎えますが、未来ある100周年にするために下記のプロジェクトを進めます。

●スマートフォン専用サイトの構築

QRコードを読み取り、スクロールのみで簡潔に我々の活動をPRします。

●PR動画の作成

視覚から入る情報量は動画に勝るものではありません。数分で魅力を伝えることを目指します。

●東日本区ウェブサイトの構築

現サイトは内向きの内容になっていますが、外向きの内容を追加し、情報発信に強く、クラブ間及び外部との強いハブとなるサイトを目指します。



RYR（区ユース代表）

石井悠紀子



「Why」を大切に
新型コロナで世界が一変した。今までの「当たり前」が当たり前でなくなり、全く違った生活様式が「新しい当たり前」になった。まさに VUCA (Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity)時代を私たちは生きている。VUCA 時代に「今までやってきたから、これからもこのままで OK」は通用しない。あつという間に衰退する。「ただやる」や「ただ続ける」を目的とするのではなく、Why を問い続けよう。「なぜやるのか」「なぜ自分達なのか」「なぜこのやり方なのか、もっと良い方法はないのか」 Why を問い続け、変化を起し続けられること。それがこれからの時代に不可欠だ。自らもそんな人間でありたいし、ワイズ・ワイズユース共にそうあれよう RYR として行動していこうと思う。

日本 YMCA 同盟

担当主事 光永尚生（三島）

更なるパートナーシップ推進
の1年を目指して



2021年度は、想像を超えた新型コロナウイルス感染拡大の中で船出いたしました。しかしながら、各地区の YMCA とワイズの活動は、オンラインのみならず、その動きを止めることはありませんでした。特に、協働型事業、提案型事業、支援型事業という従来の関係性をさらに充実させるため、パートナーシップ型事業の推進が、YMCA とワイズ双方で検討されています。具体的な働きにつながっているものもあれば、構想の段階のものもあります。特に、YMCA を支援していただくワイズの皆様から、YMCA の働きを推進するためのパートナーシップ推進の働きについての提案をいただく機会が増えていることは、私たちの YMCA に勇気と力を与えていただくものと考えています。共に「希望の灯」を高く掲げて、一年間の働きを歩んでいただければ幸いです。

副書記

座間裕二（宇都宮）



キャビネットを支えて
今年は東日本区の25周年であると同時に、一般社団法人として船出の年となります。理事スタッフとしてキャビネットを支え、知名度を上げていくことに尽力いたします。同時に法人としての責任のある組織の一員として、まだコロナの影響を受ける年となり、新しい生活様式の中での組織運営になると思いますが、効率的な運営のお手伝いをしていきたいと考えています。クラブ以外の業務についたことはありませんが、勉強しながら、新しい東日本区ウェブサイトの構築やハンドブック&ロースターのデジタル発行など新しい取り組みについても事務処理の面で支えていければと考えています。一年間、よろしく願いいたします。

副会計

長尾昌男（千葉ウエスト）



今年度（2021-2022年度）、大久保理事の理事スタッフとして副会計を担当することになりました千葉ウエストの長尾昌男です。
関東東部の部会計の役目をバトンタッチした矢先に、区の副会計の打診がありました。正会計の鈴木伊知郎ワイズ（宇都宮東）とは、千葉クラブ時代の2017-18年度に部長と一緒に務めました。千葉ウエストはチャーターしたばかりのクラブですが、理事スタッフの裏方としても協力させていただきますので、よろしく願い致します。

東日本区事務所所長
小林 隆（沼津）



アナザースカイ
（新天地へPart2）

2020年7月より堅実な小山所長の後任として東日本区事務所長に就任して2年目となります。小山前所長に「おんぶにだっこ」の1年間でした。2021-22年は、東日本区が法人となりました。各クラブの活動に変化はありませんが、区事務所は大きな変化になりました。各クラブの活動に支障がないよう対応していきます。

役員や各クラブの繋ぎ役として一所懸命に努力しますので宜しくお願いします。

東日本区事務所は、月・水・金曜日の午後のみ運営しています。不慣れではありますが、問い合わせ等は、気軽にご連絡ください。

クラブ運営に関する事務手続きのポイント

1 東日本区書記・副書記

東日本区書記・副書記は、区理事の命を受け、区の運営に必要な諸情報や作業依頼等の区内各クラブ・部・事業主任等への連絡、種々の役員会・研修会および区大会の開催に必要な諸々の準備作業、西日本区との連絡・報告業務を行います。書記 衣笠輝夫（埼玉）

〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町 2-9-3

TEL048-647-2979 携帯：090-6038-1843

E-mail：tkinubus@gmail.com

副書記 座間裕二（宇都宮）

〒320-0034 宇都宮市泉町 4-23

携帯：090-5346-5099

E-mail：nextpool@gmail.com

2 東日本区事務所

東日本区事務所は、西日本区および国際との連絡業務ならびに文書の整理、保管業務に従事し、また区の円滑な事務運営を補佐する業務を行います。

所長 小林隆（沼津）

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 2-11 日本YMCA 同盟会館 2階

TEL：03-5367-6652（FAX 兼用）

e-mail：yseast2010@gmail.com

業務受付時間：月・水・金曜日の13時～18時
（留守電の時は、お名前と電話番号のメッセージ等を残すようお願いいたします。）

3 半年報提出の手続き

クラブから提出される年2回の半年報は、東日本区の現状を把握する基礎資料となり、クラブから支払われる東日本区費（国際会費、アジア太平洋会費を含む）などを算出する基準となります。

半年報用紙は、東日本区事務所から各クラブ会長に送付されますので、会長の責任において会長または書記が記入し、期限厳守で所属の部長へ提出してください。半年報用紙は、東日本区のウェブサイトの「会員増強」からダウンロードすることもできます。

前期半年報 2021年7月1日の会員数と異動報告：提出期限 7月10日 部長宛

後期半年報 2022年1月1日の会員数と異動報告：提出期限 1月10日 部長宛

各部長はこれらを集計して前期は7月15日まで、後期は1月15日までに会員増強事業主任へ報告してください。

4 東日本区への送金

(1) 入会金

○新入会員の異動報告書を部長及び部会員増強事業主査へ提出後、直ちに入会金6,000円を「ゆうちょ銀行振込取扱票」を使用して、最寄りのゆうちょ銀行（郵便局）からご送金ください。

○通信欄に入会者の氏名をお忘れなく記入してください。

○入会金の送金を確認されてから、入会キットを送付いたします。

(2) 区費等

○区費には、国際会費（35CHF）アジア太平洋地

域会費（6\$）自然災害緊急支援基金（2\$）（何れも年額）がふくまれます。

○区費等の振込は、東日本区会計から送付される青色の「ゆうちょ銀行振込取扱票」を使用して、最寄りのゆうちょ銀行からご送金ください。ゆうちょ銀行 口座記号番号：00110-0-362981

○他の金融機関から送金する場合は、ゆうちょ銀行 019 支店(当座)0362981 へご送金ください。

○区費等の納入は、前期は 8 月 15 日まで、後期は 2 月 15 日までに、東日本区へご送金ください。

(3) 東日本大震災復興支援募金

○ゆうちょ銀行からは、ゆうちょ銀行（記号）10070（番号）31854301 へご送金ください。

○他の金融機関からは、ゆうちょ銀行 008 支店 普通預金 3185430 へご送金ください。

○加入者名は、いずれも「ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」です。

○どちらも所定の振込用紙はありませんので、各金融機関の振込用紙をお使いください。

(4) 各種献金・募金

○各種献金は、任意ですが各クラブはできるだけ目標を達成させてください。

○献金（CS、ASF、FF、BF、TOF、RBM、YES）については、「各クラブ」は「各部」へ明細を必ず付けて 2 月 15 日までに送金ください。「各部」は各クラブからの献金の取りまとめを行い、東日本区へクラブの明細を必ず付けて 2 月末日までにご送金ください。ワイズメネット献金はクラブから直接東日本区へ送金してください。

○基金（EF、JEF）、東日本大震災支援金は、直接東日本区へご送金ください。

○現物 お年玉年賀切手シートは、その分をできるだけ現金化して、ご送金ください。

○送金が 2 月 15 日より遅れた場合、原則として表彰の対象となりませんが、諸々の状況判断は事業主任に委ねられます。

○表彰で 1 人当たり献金額の基礎となる会員数は、7 月 1 日の半年報で報告された会員数です。但し、担当主事を含みます。広義・功労会員は献

金上の会員数から除外されます。

5 会員の異動報告

(1) 入会

○クラブの定める入会手続きを終え、入会式の日時が決まった際は、「会長必携クラブ運営ファイル」に入っている「会員異動報告書」

に必要事項を記入して部長及び部会員増強事業主査へメールまたは FAX でお送りください。

○ブースター賞の基礎データとなりますので、紹介者を必ず記入してください。

○入会金 6,000 円を、東日本区会計口座へ所定の青色の「ゆうちょ銀行振込取扱票」を使用して送金してください。

○通信欄に入会者の氏名を記入してください。

○入会金の送金が確認されてから、入会キットを送付いたします。

○入会者の氏名をランチョンバッジに入れる等の準備がありますので、入会式の 15 日前までに会員異動報告書提出・入会金の送金手続きを完了させてください。

(2) 退会

○退会者があった場合は、速やかに「会員異動報告書」に異動年月日等の必要事項を記入して部長及び部会員増強事業主査へメール又は FAX でお送りください

○簡潔で結構ですから、退会理由を必ずご記入ください。

○退会者から、会員バッジ・ランチョンバッジ・名札の返納を受けてください。

(3) 転出・転入

○会員が転出入する時は、双方のクラブが連絡を密にして、会員異動報告書を双方のクラブから、部長及び部会員増強事業主査へメール又は FAX でお送りください。

(4) 休会

○休会扱いを希望する会員が出た場合は、東日本区定款施行細則第 12 条に従って所定の手続きをしてください。

(5) 再入会

- 休会会員の再入会は、入会金を免除します。
- クラブを退会してから1年以上経過して再入会する場合は、新入会扱いとなり、入会金が必要です。

(6) 会員異動報告書の提出先

クラブは部長及び部会員増強事業主査へ ※東日本区事務所にもコピーをお送りください。

部会員増強事業主査は東日本区会員増強事業主任へ

会員増強事業主任 大川貴久（熱海）

〒413-0016 熱海市水口町 14-8 TEL：0557-82-1238 携帯：0903153-8304 E-mail：qqq27okawa.y@aods.jp

6 新クラブ設立会員（チャーターメンバー）の取扱い

（報告）

別掲の「新クラブ発足に必要な文書」に基づき、必要な文書を作成して東日本区事務所へ送ってください。

（東日本区費）

チャーターした月の属する半期分の区費は免除されます。

（入会金）

入会金 6,000 円（クラブ会員 1 人に付き）を所定の「払込取扱票」を使って東日本区会計口座に送金してください。

（登録費）

新クラブは国際加盟費として 100 スイスフラン（円換算額は東日本区事務所に相談してください）を所定の「払込取扱票」を使って東日本区会計口座に振り込んでください。

7 クラブブリテンに関して

クラブブリテンは会員の機関紙であり、クラブ外への広報紙であり、またクラブにとって一番大事な歴史的記録となるものですから、事実の記述を丁寧にし、必ず発行し、下記に送付してください。その内容は各クラブの自主性に任されますが、基本的に次の事項は統一してください。

用紙の大きさ A4 サイズ

必要掲載事項 ①国際会長主題 ②アジア太平洋地域会長主題 ③東日本区理事主題 ④在籍会員数

⑤例会出席者数（メン、メネット、コメント、ビジター、ゲスト） ⑥月間出席者数 ⑦月間出席率

なお、上記必要掲載事項のうち④～⑦は出来るだけ第一面下段に掲載してください。

送付先 自クラブ会員、東日本区役員（役員名簿掲載者全員）。

所属する部の役員・事業主査・クラブ会長。

8 文献の保存について

各クラブのブリテンや他の必要資料は各クラブで保存、管理してください。部やクラブで作成した以下の文献や資料などの印刷物は、1部を必ずヒストリアン迄送付してください。

- ① チャーターナイトに関する一切の資料
- ② 周年行事の記念誌
- ③ 部大会をホストしたクラブはそのパンフレット
- ④ 区大会、アジア太平洋地域大会、国際大会をホストしたクラブはその企画書、予算書、決算書等、一切の資料。（含む、写真数枚）

9 各種報告、申請用紙について

J E F ・ E F の申込用紙、会員異動報告用紙、払込取扱票等は年度始めに一括して各クラブ会長へお送りいたします。ただし、Y E E P 申請書、B F 代表申請書等は必要に応じて東日本区事務所へ請求してください。

10 国際関係

国際会長、国際議員等の推薦、選挙に関しては、その都度ご連絡いたします。なお、選挙の投票は各クラブから直接、国際協会ウェブサイトを通じて行って下さい。

2021-2022 年度 東日本区達成目標

担当	事業	達成目標
理事キャビネット	PWALP	800 円／人以上
地域奉仕・YMCA サービス	CS	1,250 円／人以上
	ASF	500 円／人以上
	FF	500 円／人以上
国際・交流	BF	2,000 円／人以上
	TOF	1,300 円／人以上
	EF	記念献金
	RBM	800 円／人以上
	YES	500 円／人以上
	IBC	7 クラブ締結
	DBC	2 クラブ締結
会員増強	新クラブ設立	5 クラブ
	会員増加数	150名
ユース	ユース活動支援	500 円／人以上
	ユースクラブ設立	3 クラブ
JEF（東日本ワイズ基金）		500,000円
LT（リーダーシップトレーニング）		次期部長・次期事業主任研修会
		次期会長・次期部役員研修会
		各部における部内研修
区報		2 回発行

2021-2022年度 東日本区予算

会員数前期850名 後期900名

1CHF120円 1USD115円として

項目	2021-22 予算	2020-21 修正予算	参 考		算 出 根 拠
			2019-20決算	2018-19決算	
収入の部					
東日本区費	13,819,000	8,051,000	12,429,500	12,461,000	前期804名×7,500円+46名×4,000円 後期854名×7,500円 + 19-20年度YVLF120万円
ハンドブック&ロースター	0	1,531,000	1,429,600	1,439,400	今期より出版物によるロースターの発行は取りやめる
入会金	600,000	900,000	264,000	324,000	6,000円×100名
物品売上	150,000	150,000	37,640	50,252	ワイズ読本等
国際加盟金	36,000	36,000	21,744	0	100CHF×3クラブ×120円
YMIワールド補助金	102,000	105,000	99,487	98,571	850名×1CHF×120円
受取利息	0	0	801	801	
雑収入	0	0	29,166	261,759	
ロースター広告	0	600,000	575,000	585,000	ロースター紙での発行を行わないため計上せず
YVLF	150,000	0	1,180,000	1,220,000	50×3,000円(発生費用は区費で賄うこととし、クラブ2万円の徴収は行わない)
ユース活動参加費	40,000	890,000	386,300	475,090	OFY参加費 1,000円×40名 (IYC中止予定)
収入の部小計	14,897,000	12,263,000	16,453,238	16,915,873	
前期繰越金	3,287,688	9,257,188	10,074,109	9,417,508	
合 計	18,184,688	21,520,188	26,527,347	26,333,381	

支出の部					
国際会費	3,675,000	4,200,000	3,374,407	3,429,709	850名×17.5CHF×120円+900名×17.5CHF×120円
アジア太平洋地域会費	603,750	690,000	545,607	593,705	850名×USD3×115円+900名×USD3×115円
アジア地域災害緊急支援金	195,500	218,500	179,988	200,122	850名×USD2×115円
国際加盟金	36,000	36,000	21,744	0	100CHF×3クラブ×120円
東日本区大会負担金	425,000	475,000	424,500	430,000	500円×850名
東日本区事務所費(人件費)	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	
(家賃)	1,224,000	1,224,000	1,218,000	1,200,000	102000円×12ヶ月
会議費	50,000	100,000	11,074	20,832	飲物代・会議室代
旅費・交通費	900,000	1,875,000	1,795,500	2,272,760	委員会・役員会、部研修会LT委員旅費等
区・事業費	1,000,000	1,200,000	719,967	784,201	メネット活動費、区大会招待費・表彰等
部・事業費	955,000	985,000	954,700	958,000	各部100,000円 + 300円×850名
事務通信費	400,000	400,000	322,320	436,658	プロバイダー料、電話料、送料
宣伝印刷費	320,000	350,000	508,020	307,202	印刷はYMIワールドのみ 当年度の区報は印刷せずWebで(20-21年度分1回印刷)
コピー機カウンターチャージ	200,000	400,000	222,643	169,237	リース料含む
ハンドブック&ロースター	0	1,344,000	1,467,579	1,505,736	紙での印刷はしない
消耗品・事務用品費	100,000	150,000	42,664	77,564	
EMC物品費	730,000	915,000	263,626	317,564	新入会員キット(1名当たり4,000円) 100名、3クラブ分キヤハル他(1クラブ110,000円)
慶弔費	50,000	100,000	67,756	46,278	弔電、祝電
銀行手数料	30,000	30,000	41,664	24,977	
租税公課	70,000			0	法人住民税均等割額
雑費	50,000	50,000	0	0	
予備費	100,000	300,000	0	0	
広報費	360,000			0	東日本区ウェブサイト年間メンテナンス費
東日本区ウェブサイト更新費	2,500,000				東日本区ウェブサイト構築費
YVLF	1,400,000	1,530,000	1,426,591	175,641	横浜YMCA主管
ユース活動費	150,000		179,850		ユースクラブ支援金 50,000円×3クラブ
活動費補助 理事/次期理事/直前理事	80,000	80,000	80,000	80,000	理事4万、次期理事2万、直前理事2万
書記/会計	40,000	40,000	40,000	40,000	2万×2
事業主任	80,000	80,000	60,000	80,000	2万×4
部長	140,000	140,000	140,000	140,000	2万×7
委員長/専任委員	80,000	80,000	80,000	80,000	1万×8
監事	20,000	20,000	20,000	20,000	1万×2
理事スタッフ	10,000	20,000	20,000	20,000	1万×1 (副書記)
支出の部小計	17,174,250	18,232,500	15,428,200	16,259,272	
次期繰越金	1,010,438	3,287,688	11,099,147	10,074,109	
合 計	18,184,688	21,520,188	26,527,347	26,333,381	

2021-2022年度 東日本区役員

区分		役職名	氏名	所属クラブ
東日本区 役員	常任役員	理事	大久保知宏	宇都宮
		次期理事	佐藤重良	甲府21
		直前理事	板村哲也	東京武蔵野多摩
		書記	衣笠輝夫	埼玉
		会計	鈴木伊知郎	宇都宮東
	事業主任	地域奉仕・Yサ事業主任	深尾香子	東京多摩みなみ
		会員増強事業主任	大川貴久	熱海
		国際・交流事業主任	山田公平	宇都宮
		ユース事業主任	三田庸平	もりおか
	部長	北海道部部长	中村義春	十勝
		北東部部長	南澤一右	仙台青葉城
		関東東部部長	大澤和子	所沢
		東新部部長	松香光夫	東京町田コスモス
		あずさ部部長	長谷川あや子	東京八王子
		湘南・沖縄部部長	若木一美	横浜とつか
		富士山部部長	小原進一	熱海
	監事	財政監事	漆畑義彦	富士
行政監事		田中博之	東京多摩みなみ	
委員長	常置委員会	文献・組織検討委員会委員長	駒田勝彦	甲府21
		LT委員会委員長	山下真	十勝
		東日本ワイズ基金運営委員会委員長	原俊彦	富士五湖
		東日本奈良傳賞選考委員会委員長	大久保知宏	宇都宮
	事業委員会	地域奉仕・Yサ事業委員会委員長	深尾香子	東京多摩みなみ
		EMC事業委員会委員長	大川貴久	熱海
		国際・交流事業委員会委員長	山田公平	宇都宮
		ユース事業委員会委員長	三田庸平	もりおか
		ワイズメネット委員会委員長	澁谷実季	所沢
	特別委員会	東日本区大震災支援対策本部本部長	大久保知宏	宇都宮
		東日本区事務所人事委員会委員長	佐藤重良	甲府21
		Change! 2022推進委員会委員長	栗本治郎	熱海
	専任委員等	ヒストリアン	仙洞田安宏	甲府
ITアドバイザー		山下真	十勝	
トラベルコーディネーター		長澤山泰	東京	
広報・伝達(PR)専任委員		佐竹誠	東京ベイサイド	
RJR	区ユース代表	石井悠紀子		
東日本区担当主事	担当主事	光永尚生	三島	
理事スタッフ	副書記	座間裕二	宇都宮	
	副会計	長尾昌男	千葉ウエスト	
東日本区事務所	東日本区事務所長	小林隆	沼津	



第25回ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 区大会

2022年6月4日(土)5日(日)

主会場:ホテル東日本宇都宮

大会テーマ:「絆を深める時」